

# 高尾山報

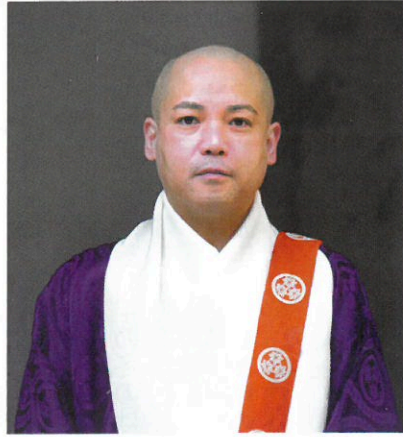
令和6年1月号

南無飯縄大権現  
大本山高尾山南無飯縄大権現

新春特別開帳大護摩供厳修



# 明けましておめでとうございます



執事  
深田 洋平



執事長  
犬山 秀康



用度部長  
山本 憲佳



庶務部長  
藤田 健太郎



総務  
原田 明仁



法務部長  
上村 公昭



用度課長  
大山 文武



参事  
佐藤 伸二



教務課長  
杉山 宗聖



法務次長  
桑名 善光

交通安全祈禱殿  
高尾山修験道

蛇滝水行道場  
高尾山報編集室

琵琶滝水行道場  
山内職員一同

## 令和6年年頭所感

# 思いやりの心

大本山高尾山薬王院 中興第三十三世 貫首 佐藤 秀仁

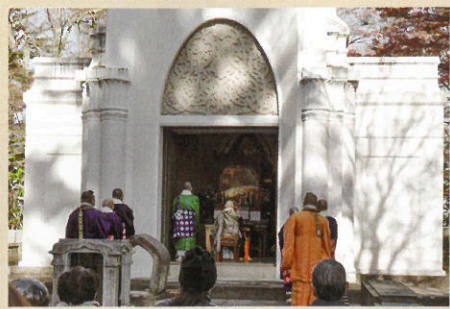


明けましておめでとうございます。御信徒の皆さまには希望に満ち溢れる輝かしい新年をお迎えなされし事と、謹んでお慶び申し上げます。  
平素ご信徒の皆様には高尾山薬王院興隆発展の為に、格別なるご理解と深いご信心をお寄せ賜り、衷心より感謝申し上げます。  
日増し厳しい寒さを迎える高尾山でありますが、空気が澄み渡るこの時期の御来光はひと際厳かであり、高尾山

が霊山として定められた由縁はまさしくここに存在すると、今更ながら先人の遺徳に唯々頭が下がり自然と手が合わりさります。  
そうした大自然の悠々たる営みに反し、世界各国では惨い争い事が絶え間なく続き、我が国内でも常識では考えられぬような人命軽視といえる事件事故が次々と起こり、相も変らぬ騒乱の世に於いて人々は不安に慄いている実情であります。

智慧が備わっているはずの人類が起す愚かな行動には、与えられた生命を何の不平不満も言わずひた向きに全うしている高尾山内の鳥虫草木に對して、誠に恥ずかしい思いが致します。  
旧年は、真言宗をお開きになられた弘法大師空海様が御誕生なされ、一千二百五十年の勝縁をお迎え致しました。弘法大師様は世の平穏と人々が精一杯人生を生き抜けるようにと、様々なみ教えをお示しになられました。その根幹はお互いを理解し尊重し感謝し合う心であります。  
世界中の人々が分け隔てなく、一日二十四時間という時の流れに従って生活をしている事と同様に、お大師様のみ心である「みんなが良くなりませうように」という意識が全人類共通のもの

なり、世界中の人々が心の底から安心して新年を慶べる日が、一刻も早く到来する事を念じて止まぬところでもあります。  
さて、来る令和七年には永和年間に入山された俊源大徳による高尾山中興開山より六百五十年という節目に正当致します。  
連綿たる尊いご法縁に對する報恩謝徳の事業の一環と致しまして、ご信徒の皆様がより快適にご参拝頂けます様に、院内諸設備の整備が計画され既に着工致しております。  
就いては引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。共に、十方ご信徒各位が御本尊飯繩大権現様の御威徳に浴せられ、愈々お健やかに過ごされ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



# 成道会 厳修

十二月八日(金)

十二月八日、高尾山上の有喜苑仏舎利塔において、成道会が厳修されました。お釈迦様が三十五歳の十二月八日に、菩提樹の下で悟りを開いて、仏陀(仏様)とされたことを成道といっています。  
この尊い日には、毎年成道会という法要が営まれております。

十八本山参籠(9)  
師友参籠  
総本山高野山  
佐藤 禦前 領導者  
六根清浄 誠懺悔  
慾望崇拜 高野深  
五體投擲 奥院内

厚木市 荒井 一雄  
酒飲 断ら  
朱院 御朱印  
初登り  
師友、総本山高野山に参籠る  
佐藤貫首、先導師：  
『慚愧懺悔、六根清浄…』  
念願の高野の山深く登拝し  
『五体投地礼』を奥之院にて  
肅々と励行す…

春になつて薄くなつた氷の上を春の穏やかな風が吹き抜けているのでしようか。氷が解ける音を聞きつけて、冬ごもりしていた虫たちも動き出し始めるかもしれません。  
さて、この歌には詞書(歌の題)に「煩惱即菩提」と記されています。「煩惱」は「心を苦しめるもの」、「菩提」は「悟りの境地」という意味で、この二つを「即」(そのまま)という言葉でつないでいます。「煩惱あれば菩提あり」と言われるように、迷いの心(煩惱)があつてこそ悟り(菩提)に至れるのでしよう。  
この「春風に」の歌では、池の「氷」と「水」が詠み込まれています。見た目は固体(氷)と液体(水)とで違つていても、解けてしまえば同じもの(氷即水)となります。第四句「とくれば」という語句には、氷が「解ければ」の意とともに、「思い解けば」(考えをめぐらして理解すれば)とい

う意味合いも掛けられていようです。  
せつかくですので、もう一首、お大師さまの和歌をご紹介したいと思います。  
さとりとは  
さとりなり  
さとるさとりは  
夢のさとりか  
弘法大師(拾遺風体集)  
この歌は、鎌倉期の私撰集『拾遺風体和歌集』(延慶元年「二二〇八」以前成立)に見える空海歌です。仏教に関わる和歌が並んだ「釈教部」の巻頭歌として置かれています。なぜか「弘法大師全集」所収の「和歌集」には収録されていません。  
歌の内容を見てみると「さとり」という言葉が七回も繰り返されていて、一見、禅問答風の難解な歌のようにも見えます。歌の「さとり」(覚)と「夢」という語句のみで歌が構成されています。

初句に「さとりとは」とあるように、この歌では「覚りの世界」が解き明かされているようです。歌の意味は「覚りの世界とは、無心の境地で覚るのが真の覚りであり、意識して覚り得た覚りは夢のような覚りである」となるのでしよう。「真の覚り」(無心の覚り)と「夢の覚り」(夢中の覚り)が比べられています。  
この歌はやがて、時代とともに広く知れ渡つていきました。今では「悟ろうと思ふも迷い」(悟ろうと思ふこと自体が執着であり迷いである)ことを解き示す歌として「ことわざ辞典」にも採られていくほどです。ただし、お大師さまの歌としてではなく、誰が詠んだとも分からない「古歌」として挙げられています。もはやお大師さまの手を離れて、人々の心の中に深く浸透していった「覚りの歌」と言えるのでしよう。  
(栃木北部教区普濟寺)

# 法の水茎

大正大学講師 高橋秀城

(139)

元日の空は「初雪」、年が改まったことへの祝意を込めて「初御空」とも呼ばれます。慌ただしく押し迫つていった年末から解き放たれると、身も心も晴れ渡つた大空のように、何となく清々しい心持ちになるものです。新年を迎えた和やかな「淑気」の中で、見るもの聞くもの全てが新鮮に感じられます。

あらたまの年のはじめに  
降りしけば  
初雪とこそ  
いふべかりけれ  
『金葉集』  
修理大夫顕季

(新しい年のはじめに雪が絶え間なく降つているので、これは「初雪」と言うべきですね)  
この歌を詠んだ藤原顕季(二〇五五〜一二三三)

は、新年に降る雪を「初雪」に喩えました。通常はその年の冬のはじめの雪を「初雪」と言いますが、顕季は降り続く雪を、去年の雪と今年の雪とに分けて楽しんでいたのでしよう。「初雪は目の薬」という言い回しがあるように「新年の初雪」の清らかさに目を奪われているかのようです。  
この歌を贈られた藤原公実(二〇五三〜一一〇七)は、次のような歌を返しました。

朝戸あけて  
春の木末の  
雪みれば  
初花ともや  
いふべかるらん  
『金葉集』  
春宮大夫公実

(朝、戸を開けて春の木々の梢に積もつている雪を見てみると、それは真つ

白な「初花」とも言えるのではないでしようか)  
公実は枝先の雪を「初花」(その季節に初めて咲く花)に喩え、いち早く白花と巡り会えた喜びを詠いました。二人の雪への見方は異なつても、新年の訪れをお互いに言祝ぐ気持ちは同じなのでしよう。  
お正月は、一年中で一番楽しい時期でもありません。昔から「目の正月」と言われるように、鳥の「初鳴き」や花の「初咲き」などにも心癒やされるのでしよう。たくさんの美しいものや珍しいものを見聞きしつつ、新春のお寺や神社に足を運んで「初祈り」をしてみるのも至福の一時かと思えます。  
二十四節気の「大寒」(二月二十日)を過ぎて「立春」(二月四日)が近づいてくれば、少しずつ春の息吹が感じられるのでしよう。先月号では、弘法大師空海(七七四〜八三五)の和歌を取り



高尾山へ初詣にお越しの際には新年の「初」に出会えるかもしれません

上げましたが、次のような歌もお詠みになつています。  
春風に  
波より池の  
薄氷  
とくればもとの  
水とこそなれ  
『弘法大師全集』  
(春風で波立つ池の薄氷も、解ければもとの水になるよ)

# 観音菩薩の宗教

73

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 如意輪観音（その11）

前号では六臂の如意輪観音菩薩の初期の画像として『高雄曼荼羅』の蓮華部院に残る線描の作例を見た。今号では六臂の如意輪観音の仏像化について述べる。

弘法大師空海の請来した不空訳『観自在如意輪瑜伽』には、如意輪観音の像容について、「手持如意寶 六臂身金色」「第一手思惟」「第二持意寶」「第三持念珠」とあり、また「左按光明山」「第二持蓮手」「第三掣輪手」「六臂廣博體」などとあり（『大正大藏經』第二十卷、二〇八下段〜二〇九頁上段）、前号で見た『石山七集』「胎藏界七集」とほぼ同意の表現が見られる。

こうした一々の像容に

次いで、『観自在如意輪瑜伽』には「第一手思惟 愍念有情故（第一手は思惟、有情を愍念するが故に）」「第二持意寶 能滿一切願（第二は意寶を持ち、能く一切の願を滿たす）」「第三持念珠 為度傍生苦（第三は念珠を持ち、傍生の苦を度す為なり）」などと持物と菩薩の功德とのつながりが述べられている。すなわち、第一手は生きとし生けるものに対する慈悲の心を表し、第二手はすべての願いを成就し、第三手は畜生の苦を救うためにあるという意味である。『観自在如意輪瑜伽』が説くのは、如意輪観音が衆生の諸願を叶える慈悲の菩薩であり、それを印相や如意宝珠を含む持物により象徴し

ていることである。こうした『観自在如意輪瑜伽』所説の言語的表現と、『高雄曼荼羅』の絵画的表現には概ね一致が見られ、空海以降、六臂の如意輪観音の信仰が起き、また弘まっていたことがわかる。その典型的な作例にして、最初に属する造像は、観心寺蔵の木造如意輪観音坐像（国宝）である。

六臂の如意輪菩薩の信仰を齎したのは空海であるが、観心寺の像は空海の弟子の眞慧と眞紹らが観心寺を建立したことより始まった。伝承によれば観心寺は八世紀初頭、役小角が創建したとされる。役小角は大和や吉野の山岳で苦行した行者で修験道の開祖とされ、その生涯は後世、種々の伝説に彩られた。

他方、観心寺の縁起や財産目録を記した元慶七年（八八三）『観心寺勘録縁起資材帳』によれば、空海の弟子の眞紹（七九七〜七八三）が天長年間

（八二四〜八三四）の初めに道場を建立して観心寺と号したと伝える（高橋早紀子『観心寺如意輪観音像と敬愛法―観心寺の寺院構想と橘嘉智子の御願をめぐって―』『仏教芸術』二〇一九年、第3号、63〜64頁）。一方で、眞紹は先師・眞慧（七八三）が観心寺を創建したと述べている（同論、64頁）。いずれにせよ伝説時代を除けば、弘法大師直系の眞言僧らによつて観心寺が築かれ、そこに如意輪観音の彫刻が納められたことになる。

観心寺如意輪観音像の像容や持物を見ると、小異はあるものの、『観自在如意輪瑜伽』や『石山七集』「胎藏界七集」とほぼ同様である。いくつかわけを示せば、観心寺如意輪観音像の右の第一手は類に添えて思惟相、右第二手は胸の前で宝珠を持ち、右第二手は垂下して念珠を持ち、左第一手は垂下して掌を下に向け、左第二手は上に向けて蓮

華を持ち、左第三手は上に向けて人さし指に法輪を載せている。

加えて、多くの研究者は観心寺の如意輪観音像の特色として女性性を挙げる。仏教美術史家の井上一穂は、面相から肩部にかけてのふくよかな肉付けを「官能的」とし、その表現を「即身成仏を目的とする密教教理からくる」もので、「官能性はインド的なものの名残である」という解釈も成り立つかも知れない」と推測している（『日本の美術』No.312「如意輪観音像・馬頭観音像」至文堂一九九二年、二九頁）。さらに、「その理想の女性像のイメージにあったのは、正倉院の鳥毛立女や薬師寺吉祥天女像にみるような唐人の姿」とも推定し、「片膝を立てるポーズ」が薬師寺八幡神像の内の「仲津姫・神功皇后」と共通し、このすわり方を女性特有のものとする考えがある」と述べている（同、二九〜三〇頁、ルビ



平生顔色病中憂  
芳艸如眠新死姿  
恩愛昔朋苗尚有  
飛揚夕魄去何之  
顔花忽盡春三月  
命葉易零秋一時  
老少本末無定境  
後前難道速將逢

### 第一新死相

金岡。

この像の女性性の理由は、諸学者により造像の願主が橘嘉智子（七八六〜八五〇）であったことに起因するとされてきた。橘嘉智子は嵯峨天皇の皇后で、天皇ともども仏教への尊崇の念篤く、嵯峨野に日本初の禪院たる檀林寺を建立したため檀林皇后と呼ばれた。橘

嘉智子は、承和八年（八四一）に空海の弟子の實慧より密教の灌頂を受け、後世、彼女の名が広く知られたのは、『九相詩絵巻』のモデルとして伝えられたことが大きい。『九相詩絵巻』とは『九相凶』のひとつで、人の死後、その遺体が野に捨てられて変色し、膨れ上がって朽ち果てるまでの有り様を九場面に互つて描いた絵画である。かかる絵画の目的は、「きれい」

橘嘉智子がモデルとされる九相詩絵巻の一節  
『九相詩絵巻』、室町時代 15〜16世紀、九州国立博物館蔵  
「ColBase」(https://colbase.nich.go.jp/collection\_items/kyuhaku/A56?locale=ja)

と思っている身体が実は「汚い」ことを知り、身体や生・性などへの執着を絶つことで、それを体得するため汚いものを観る修行を不浄観という（金岡秀郎『文学・美術に見る仏教の生死観』九相詩絵巻の思想』NHK出版、二〇二二年、一〇四〜一一〇頁）。『九相詩絵巻』の主人公は十二単を着た皇后であり、かかる雲上人にして絶世の美人と謳われた橘嘉智子ですら朽ちていくと知ることには、一般の人々にとつても大きな宗教的・教育的効果があったであろう。また、九相詩の「詩」は、空海作と伝えられる漢詩が添えられているからである。その漢詩には腐敗等による死後変化の名称と状態が歌われ、生命の無常が説かれている。

美術史家の高橋早紀子は、橘嘉智子と観心寺如意輪観音像の思想的・歴史的背景を考察し、橘嘉智子による造像の「御願」の意味を明らかにした

（高橋前掲論文、五九〜七八頁）。同論によれば、橘嘉智子が藤原良房を通じて阿保親王からの密書を仁明天皇へ伝奏したことを発端に承和九年（八四二）に承和の変が勃発、臣下間の抗争や対立が表面化した。これを鎮めるため、橘嘉智子が和合親睦を祈る修法である敬愛法を発願し、その本尊として造像されたのが観心寺の如意輪観音坐像であるとする。敬愛法は、上述の『観自在如意輪瑜伽』の説く如意輪観音の功德に加えるべき、修法の本尊としての功德といえよう。

眞言密教という修法には、息災法・増益法・降伏法・敬愛法の四種法がある。息災は病氣や災害をなくすこと、増益は繁栄や成長を望むこと、降伏は悪霊や敵を鎮めることで、これらの願を本尊に祈願して護摩などの密教儀式を通じておこなうことを修法という。高橋早紀子によれば、観心寺は、根本的堂宇と見られる如法堂の当初の安置仏が『四種護摩口決』に説かれる四種護摩修法の各本尊と一致することから、四種護摩法を行なう道場として構想されたとする。このうち最も秘密とされる敬愛法の本尊として、如意輪観音像が製作されたという（同論、七二頁）。また、平安初期密教において灌頂と修法は不可分の関係を有しており、嘉智子が八四一年に實慧より灌頂を受けていたことは、観心寺如意輪観音像が敬愛法の本尊として発願・造像される前提であったと解釈されている。高橋説を纏めるに、観心寺如意輪観音像が女性性的な像容を有するのは、造像の願主が篤い仏教信者の檀林皇后すなわち橘嘉智子であったからであり、その彼女が自らを発端とした承和の変後の不和を収めるために観心寺本尊に敬愛法の勤修を発願したものである。

# いけばなの心④7

華道教授 佐藤 宗明

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

今回は『松竹梅』の生花をご紹介します。松竹梅は生花の中でも『伝花』と言われるいけ方の一つです。

松竹梅は祝儀として最

高の取り合わせと言われます。池坊は他に作品を並べる事なく、単独で生ける花として伝えられています。使用する花材がちょうど新春に揃える事ができるため、新年の場に非常にふさわしい作品です。

また、どの花材を、ど

の役枝に配置しても良い事になっており、非常に色々な姿を見せてくれる花形でもあります。

今回は竹の上下から枝を出し、竹に二つの役割を担ってもらいました。下方から出した枝には、『体』という役枝の役割、作品中央部分の枝には胴体部分を引き締める役割を担ってもらっています。

皆様の一年が心身ともに健全で素晴らしい年となりますよう、お祈り申し上げます。



花材：松 竹 梅

# 天狗面安全祈願法要

十二月九日(土)

十二月九日、J R高尾駅ホームにおいて、旅客安全、輸送安全、交通安全を祈る「天狗面安全祈願法要」が執り行われました。

法要前には一年の汚れを落とすため天狗面の清掃が行われ、J R高尾駅の駅長をはじめ駅員の皆様、公益社団法人八王子観光コンベンション協会、高尾登山電鉄株式会社の職員の方々にお手伝い頂きました。

法要に際しては駅を歩き交う人々が足を止められ、共に祈りを捧げました。

天狗面は昭和五十三年十月に完成し、今でも高尾山へお参りにこられた御信徒や、高尾駅を利用される方々の安全を毎日見守っておられます。



天狗様に一年の交通安全を祈る

## おはなし散歩道

# プレゼントはなあに？

柏市 木村 研

ともちゃんは、保育園の先生に作ってもらったガムテープの芯で作った編み機で、マフラーを編みました。細くて長いマフラーです。

「ありがとうございます、そのマフラーを、毎日お迎えにきてくれるおばあちゃんにプレゼントしました。」

「おばあちゃんは、細いマフラーを首に巻いて、ありがとうございます。あったかいよ」と、言いました。

「お礼を言われて、ともちゃんも、なんだかうれしくなりました。」

「そんなら、いらぬ毛糸、もつとくれない」

「また編むのかい」

おばあちゃんは、押し入れから、ボールのように丸めた毛糸をたくさん出してくれました。

でも、それは、残り物の毛糸でした。長いのも短

いのもありましたから、ともちゃんは、いろんな毛糸をつないで、長くしてマフラーをあみしました。すると、カラフルなマフラーになりました。

「かわいい」

ともちゃんは、そのカラフルなマフラーを、晩ごはんの支度をしているお母さんにプレゼントしました。

「ありがとうございます。ほんとにあったかいわ」

お母さんが、うれしそうにいいました。

「お礼をいわれると、ともちゃんは、

「編み物、もつとしたいから、もつとくれないから、うだい」

と、言いました。

「あらあら、そんなに編み物好きになったの。それから、明日、帰りに買ってきてあげるわね」

次の日、お母さんは約束どおり、仕事の帰りにたくさん毛糸を買ってきてくれました。

ともちゃんは、さっそく先生に作ってもらった編み機に毛糸を巻きつけて、編み始めました。

すると、会社から帰ってきたお父さんが、

「おつ。編み物だね。何をあんでるの？」

と、聞きました。

「マフラーですよ。ほら」

おばあちゃんが、首に巻いたマフラーをみせて、

「あったかいよ」と、言いました。

するとお母さんも、

「ほんとに、温かいわ」と、いいました。

「なんだい。お母さんももらったのか。それなら今度は、お父さんのマフラーだね」

お父さんは、編みかけの毛糸を覗いて、

「でも、それにしちゃあ、ちよつと色が派手すぎないかい」

と、言いました。

「いいの。これ、お父さんの

「じゃないから」

ともちゃんは編みかけの編み機を片付けました。それから何日かして、長い長いマフラーが編みあがりました。

お母さんが、

「そんな長いマフラー、誰にプレゼントするの？」

と、聞きました。

すると、ともちゃんは、

「こぞうのマスクよ」

と、いいました。

「こぞうのマスク？」

「そうよ」

ともちゃんは、遠足で動物園にいったとき、子象が風邪を引いていたから、鼻にかぶせるマスクを作ったあげたの、と言いました。

「まあ、すてきなプレゼントね。子象、よろこぶでしょうね」

とお母さんが言いました。すると、お父さんが、

「それなら、今度の日曜、プレゼントをどどけに、動物園に行こうか」と、言いました。

「ほんと」

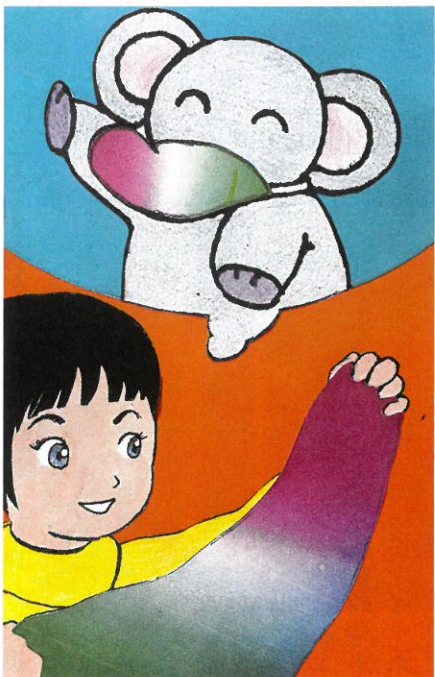
「ほんとさ。お年玉のプレゼントなら、早い方がいいだろう」

「ありがとう」

だから、ともちゃんは、次に編むのは、お父さんのマフラーにしようと思えました。

(おわり)

(挿し絵・小出 茂)



# 高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

49

## 十八世秀神7 江戸赤坂清八の道標

江戸時代も後期にさしかかる寛政年間（二七八九〜一八〇二）になると、江戸における高尾山信仰の具体相が見えてくるが、唐銅五重塔建立の願主として赤坂在住の足袋屋清八という人物が出てきた。実はこの清八こそは、この時期の高尾山信仰の高揚にのみならず、貢献をした人物なのである。

### 足袋屋清八

『享和雜記』という書物は享和年間（一八〇一

〜一八〇四）前後の世事一般を書き留めた書物だが、「足袋屋清八が事」という一章段がある。実名が立項されるくらい、当時、江戸では知られた存在だったのだろう。それによると、赤坂裏伝馬町の質素な裏店に住み、足袋の縫製を生業としていたが、小刀の先で人の背中と腹に向かってとあるので、文字のようなものを書くというのは、空を切る呪術をおこなったということだろう。「諸願

ごとく成就し、諸病治せずという事なし」という評判で、狭い家に入りきれない人が表に行列を作っていた程だったが、謝礼を取ることはなかった。その効験は「高貴の方」へも知られていたと言いが、五重塔再建に久留米藩主有馬頼貴が大檀那となったのも、こうした事情があったようだ。「この者武州高尾山を信仰する事年あり」と特筆され、高尾山の「洗米」を望む者があれば分け与えていた。「洗米」とは神への供物とするため洗い清めた米のことで、「饌米」とも書く。「分け遣わす」とあるので、清八が供物の「お下がり」として手許に取り置いたものを分与したという解釈

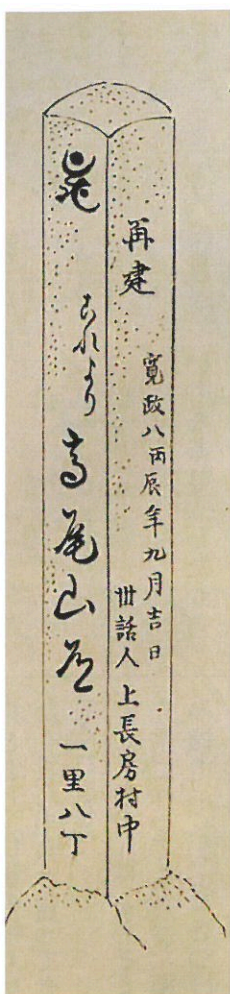
になる。こちらも初穂料は受け取るだけだったという。護摩を焚きたいという人があれば、その夜の内に高尾山へ伝えに往来したという、恐るべき健脚の持ち主ともされていた。塔の再建や後述する数々の道標建立の中心人物となるなど、身の回りを少なからぬ資金が動きながら、身なりは裏店居住相応に質素で、先祖祭祀と貞節を重んじる清貧の人であったという。

### 清八建立の道標

さて、五重塔建立に加え、清八による高尾山信仰に係わる事績として特筆すべきは、高尾山へ参詣者を誘う道標の建立である。現存が確認できる清八の名が刻まれた道標は四基を数える。

現在は破断した状態で元の八王子市郷土資料館の敷地（八王子市上野町）に屋外展示されている「これより高尾山道」の道標は、かつて高尾山最寄りの上長房村小名路の

追分（現在の甲州街道と旧甲州道中の分岐点）に立っていたことが、江戸後期の地誌『八王子名勝志』（二八四九）の挿絵に見える（図）。そこには「世話人上長房村中」の文字が見え、反対側には「願主江戸赤坂清八」と刻まれている。寛政八年（二七九六）の年次は、五重塔再建を発願し、製作にかかったとされる年で、清八に係わる記録として最も古い年次となる。享和三年（一八〇三）の年次をもつ道標が二基あり、それぞれ琵琶滝と蛇滝への道筋を示したものである。「是よりびわのたきみち」の道標は二〇〇〇年に四天王門前の斜面の朽木を処理する折に発見されたもので、現在は御護摩受付所脇に移設されている。願主清八とともに世話人として二五名が名を連ねており、日頃から清八に帰依していた者であろう。彼らの素性が気になるが、残念ながら大坂屋平兵衛が米問



（国立国会図書館デジタルコレクションから）

屋、尾張屋清右衛門が人宿（今日で言う人材派遣業）という以外は不明である。屋号ではなく苗字を名乗る者、左官という肩書の者も含まれ、出自は多岐にわたっていたようだ。「是より蛇滝まで八丁」の道標は旧甲州道中沿いの蛇滝口（八王子市裏高尾町）にあり、下部は地面に埋没しているが、判読できる銘文から、建立年次と世話人は琵琶滝道と全く同一と判断できる。

もう一基は八王子市追分町の交差点近くに立つ「左甲州道中高尾山道」の道標である。第二次大戦の空襲によって破断したが、二〇〇三年に再建され、現在は交差点よりやや西側に移設されている。年次は文化一〇年（八二二）と若干下る。

### 道標からの知見

これらの道標の建立は、一八世紀末から一九世紀初めにかけての高尾山信仰の高揚を示しているだ

ろう。唐銅五重塔には有馬頼貴という大檀那が付いたが、享和の道標には商人らが名を連ねた。ごく限られた情報ながら、江戸の人々への高尾山信仰の浸透の様子を感じることができよう。小名路の追分は、甲州道中から分岐する参詣路がわかりづらく多くの旅客が道に迷っていることから、宝暦五年（二七五五）に地元の人々が鳥居の建立を願った場所である。鳥居が実際に建ったかは不明なのだが、道標の図に「再建」とあることは注目に値する。鳥居の代わりに道標が立てられた可能性はある。そして、寛政のこの時、同様の理由で道標が再建されたのではないか。

霞台から下る道とも異なるが、当時は広庭の端から琵琶滝へ直降するルートが存在したことを裏付けている。寛政七年の『武野遊草』の記述では、すでに一号路が整備された表参道となっていたことが明らかだが、蛇滝口の道標は裏高尾方面からの参詣者があったことを示している。その後、文政期（二八一八〜一八三〇）の地誌には蛇滝の記述がなく、紀行文の著者は表参道を登っている。化政期に表参道経由の参詣が盛行した結果、東方からは小仏閑の向こうとなる蛇滝道の参詣は下火となったのかもしれない。



八王子追分交差点の道標



蛇滝口の道標  
（向かって左側）



2000年に発見された  
琵琶滝道の道標

《参考文献》吉岡孝「近世後期における寺院の新動向と社会変容」、『法政史学』四六、一九九四、縣敏夫『高尾山の記念碑・石仏』（高尾山薬王院、二〇〇七）

おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

令和六年も正月期間(一月一日～一月三十一日)限定で「令和新春特別祈禱札」を授与致します。

近年は自然災害や疫病の流行等、様々な災厄が頻発しております。しかしながら、年が改まり心機一転する正月を迎えるにあたり、種々の災いが少ない、明るい一年となるようにと、特に御祈願申し上げる次第であります。御信徒の皆様方におかれましては、この機会に是非御来山を頂き、新たな年の安寧を共に祈り下さいますようお願いいたします。

ご祈禱料は一体三萬円となります。

願意(お願い事)は「除災開運」のみとなります。

御来山当日でのお申込みも可能ですが、正月期間の御護摩受付所は混雑が予想されるため、事前にお申し込みも頂けます。また、御信徒様各位の御都合により高尾山へ御来山頂けない方の為に宅配でのお取り扱ひもいたしておりますので、ご希望の方は下段の記事をご参照下さい。

## 新たな年の安寧を祈る 正月限定 新春特別祈禱札



## 御護摩修行のすすめ 皆様の諸願成就を祈願する

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行をお勤めしております。

御護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様が祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、御供物と共に清浄な場所に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯繩大権現」とお唱え下さい。



御朱印とは本来、心願成就を祈り書き写した経文(般若心経・観音経等)を、御本尊様の宝前にお納めし、その祈願を込めた印として頂いたものです。

現在は神社仏閣への参拝の証として、御朱印を頂く場合が多いようです。

高尾山は霊山として、又、多摩新四国第六十八番、関東三十六不動尊第八番の霊場の札所としてもその名を知られており、季節限定の御朱印など、様々用意しております。

尚、御朱印は御本尊様の御分身に当る宝印であります。大切に護持頂きまして、益々御本尊様のご利益に浴せられますよう心よりお祈り申し上げます。

## 高尾山薬王院の御護摩札

<p>交通安全 (ステッカー) (車内用札)</p> <p>※お供物がつきません</p> <p>最大巾5.5×長12.5cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾太郎殿</p> <p>最大巾8.0×長35.5cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾次郎殿</p> <p>最大巾8.5×長37.7cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾三郎殿</p> <p>最大巾9.5×長42.3cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾五郎殿</p> <p>最大巾12.0×長48.5cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾八郎殿</p> <p>最大巾12.0×長54.5cm</p>	<p>御護摩修行 家内安全 高尾太郎殿</p> <p>最大巾14.3×長60.5cm</p>
(大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円	お護摩 3,000円以上	お護摩 5,000円以上	お護摩 10,000円以上	特別大護摩 30,000円以上	開帳大護摩 50,000円以上	特別開帳大護摩 100,000円以上
<p>(一)内の略体をお書き下さい。</p> <p>お護摩の願事</p> <p>お願い事は一体一願意とします。</p> <p>併願(二願意)は一万円より受け賜ります。</p> <p>但し、五千円で家内安全と商売繁昌のみ併願とさせていただきます。</p> <p>お護摩札には年令・生年月日等は入りません。</p>						

## 御護摩札及び御守等 郵送・宅配申込方法について

当山では、年間を通して遠方の御信徒様や、高尾山へ直接御参拝することが難しい方々の為に、御護摩札をはじめ各種御守等を、郵送及び宅配にてお受けしております。

お正月御護摩札のお申し込みにつきましては同様に、お手紙やFAX、または「高尾山公式ホームページ」内の「御護摩札 郵送申し込み」からインターネットにて承っておりますので、ぜひご利用頂きますようお願い申し上げます。

また、各種御守をはじめ、天狗団扇や熊手等のお正月限定の縁起物の郵送をご希望の際には、お電話にてお問合せ下さい。

お問い合わせ先の電話番号、FAX番号につきましては左記の通りとなりますが、ホームページのアドレス及びQRコードにつきましては、二十ページ下段に記載されておりますので、そちらをご参照下さい。

- TEL 0411-661-115  
FAX 0411-664-119
- 1 御護摩札のみ
  - 2 御護摩札及び御守
  - 3 御守のみ
- 御護摩係まで  
御護摩係まで  
郵送御守係まで

お電話やFAXにてご連絡を頂く際には、次のように御護摩係か郵送御守係までお願いいたします。



侍衣装を着た慶賛会の皆様

「物で榮えて心で滅ぶ」という言葉は、昨今の世相を端的に表現しているようにです。

経済発展の代償として、公害、交通禍、その他様々な弊害が生じ、経済的には豊かになりながらも、心は貧しく刺々しくなり、社会全体が人々の「迷いの心」で覆われております。かかる時代こそ、心に「うるおい」を与える存在として信仰心が必要であり、信仰の暖かい心を通じて愛情、尊敬、感謝などの心を養い、人間味豊かな社会を建立したいものと念願しております。

高尾山は自然と伝統文化が現在に受け継がれていることから「靈氣満山高尾山」として日本遺産に認定され、多くの参拝者が訪れております。

こうした恵まれた環境の中にある薬王院には、古来より僧侶だけではなく、広く一般からの篤志家が参加して行われる、多くの年中行事が伝承されております。高尾山慶賛会は、こうした各種の行事を奉賛し、以て御本尊を尊信し、その御加護を仰ぎ明るく暖かく、そして豊かな生活を送ることを目的とするものであります。

ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会員を募り、ご加入御協賛を頂き、御本尊様の威神力に浴されますよう念願するものであります。

# 高尾山慶賛会入会のおすすめ

**お申込・問合せ**

年会費 一口五千元

申込方法 お手数ですが「高尾山慶賛会係」までお問合せ下さい。

申込用紙を発送致します。

〒一九三-八六八六

八王子市高尾町二七七

高尾山薬王院「慶賛会事務局」

TEL ○四一六六一-一一一五

FAX ○四一六六四-一一九九

## 高尾山 季節散歩

和風月名

睦月「むつき」

一年の始まりとなる一月は「睦月」の異称で知られており、「睦び月」が転訛した言葉と考えられております。

「睦ぶ」とは仲良くするという意味で、そのため睦月の語源は新年を祝い家族や親族が集まり、親しむ月というものです。

今月の風物詩

成人式

一月の第二月曜日は「成人の日」として国民の祝日となり、おろ、多くの市町村で成人式が開かれます。

振袖や羽織袴を着た新成人が多く行き交う華やかな一日で、無事に成人を迎えられたことを祝うイベントとして広がりました。

健康登山者投稿作品

季節の絵手紙

八王子市 栃谷 玲子

「すてきな一日を」



## 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

二十四段 成功しても驕ることなく浮かれない

物事が思い通りに進んでいる時にこそ、驕り高ぶらないよう注意しましょう。調子が良い時にはどうしても心が浮き立ってしまうものです。そんな時にこそ、心を抑えて平常心であることが肝心です。謙虚さを忘れずにして、慎重に慎重に。

◎健康登山の皆様へ

高尾山報投稿の御案内

御護摩受付所では、皆さまの『健康』に関する思いや思い出・習慣、又は『健康登山』を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて頂いております。

そこで、皆様のお話を多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話を、『高尾山報』に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ポエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。

※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」のお勧め

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。

登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。

期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すペーシがあり、終了したことを満行と言います。満行されますと健康登山者限定の記念品などと交換ができます。

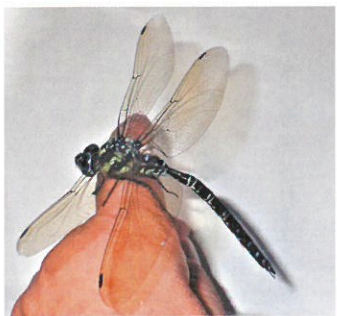


帳面……………七百円  
スタンプ…百円

## 高尾山の昆虫

### オオルリボシヤンマ

171



早朝の高尾山、ケール駅で顔を洗おうと洗面所に向かう途中、私に向かつて飛んで来る大型のヤンマがいて、私の足元に止まりました。

一瞬オニヤンマかと思いましたが、腹部はオニヤンマ独特の黒と黄色の段だら模様とは違い、明瞭な瑠璃色と緑の斑紋が輪状に彩られ、実に鮮やかで私の知るルリボシヤンマを思わせました。

ただこれまで高尾山で出会ったルリボシヤンマよりも大きく、青味も強いためオオルリボシヤンマ(大瑠璃星蜻蛉)であることに気がつき、この地に生息していることをとても嬉しく感じた次第です。

大型で美しい本種は小さい頃からの憧れのヤンマで、ルリボシヤンマ共々高山に行かないと見るのは難しいと想像していましたが、高尾山で劇的な出会いをしたことになりました。

オニヤンマの雄大きさとマダラヤンマの優美さを兼ね備えている種で、晩秋までその姿を見ることが出来ます。

私の中ではかなりの稀種でしたが、リフト駅周辺の池ではルリボシヤンマと結構混生しているようで、知らずにいただけということになりそうです。

(撮影・文松島 孝)



令和六年 甲辰(きのえたつ)  
**高尾山節分会追儺式参加申込の御案内**



二月三日(土)

歳男・歳女 修行時間

第一回	午前七時半
第二回	午前九時
第三回	午前十時半
第四回	正午
第五回	午後一時半
第六回	午後二時半

尚、修行時間の三十分前、もしくは、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。もし時間に間に合わない場合は次回の修行時間にお入り頂きますので、何卒、ご了承下さいませ。

高尾山恒例の節分会(豆まき式)を、二月三日、身上安全、事業繁栄、諸縁吉祥、除災開運等の祈願をこめて開催致します。  
 御信徒の皆様には、歳男・歳女に参加されますよう御案内申し上げます。

冥加料(祈祷料)三万円

お問い合わせ 高尾山節分会係  
 電話〇四二(六六一)一一一五

高尾山火渡り祭

(令和六年三月十日 日曜日)

柴燈大護摩供御壇木特別志納御案内

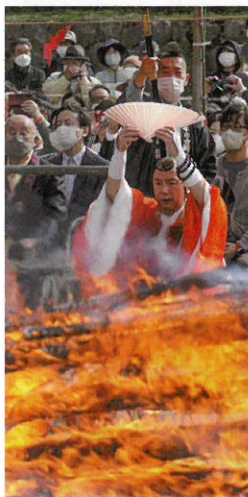
當山では毎年三月第二日曜日に春を招く恒例行事として、祈禱殿火渡り本尊ご寶前にて、高尾山修験道による火渡り祭が盛大に執り行われます。  
 火渡り祭とは、當山貫首大導師のもと、全国各地の靈山で修行を重ねた山伏が、一心に諸願成就の祈りを捧げる、関東屈指の大祈禱法要であります。  
 この浄行にあたり、御信徒の皆様方より柴燈大護摩供にて供される、御本尊・飯繩大権現様の功德を顕す御壇木のご志納を一本二万円にて募っております。  
 ご信徒の皆様、並びにご講中の講員様方におかれましては、高尾山の浄行に大いなるご信助を賜りますよう、謹んでお願いを申し上げます。  
 尚、ご志納の証として、ご芳名を薬王院参道に二年間掲示致します。御志納方法についての詳細は、高尾山薬王院信徒部までお問い合わせ下さい。

電話 〇四二六六一二二五  
 FAX 〇四二六六四二九九

大本山 高尾山薬王院 信徒部

祈大願成就 身体健全

高尾 登



火渡り祭「なで木」の功德

「なで木」とは御本尊様の大慈大悲の御手であります。  
 年齢・氏名を御記入の上、健康な方は益々壮健であるように、お身体に病の生じている方は、御本尊様を念じながら「なで木」でその患部を撫でさすり下さい。

高尾山火渡り祭において、柴燈大護摩供の護摩木として山伏により、



なで木料 一座二百円

火中に供されることで、身体健全・息災延命を祈念して御本尊様よりお加持を賜り、病魔を滅する御加護をいただきます。

お知らせ

高尾山では、御壇木御志納の申し込みを、お電話・ファックス等で受付けております。  
 高尾山報の一月号に同封いたしました、郵便振替「払込取扱票」を利用してもお申し込み頂けますよう便宜を図りましたので、よろしくお願い申し上げます。

「払込取扱票」でお申し込みを頂く際に、願意(お願い事)が未記入でご連絡がつかない場合、「身体健全」とさせて頂きます。  
 また、火渡り祭の時に名前を読み上げますので、フリガナの記入もお願い致します。  
 尚、「払込取扱票」は、高尾山報助成金の振替にもご利用いただけます。

御本尊・飯繩大権現様との御縁を深める

### 大本堂内結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯繩大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げています。

お申し込みになると、御納佛との尊い結縁のしるしとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁栄を祈念するものであります。

また、御納佛が壁面に満たされまると、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。

御納佛冥加料 一体 五萬円

お問い合わせ 御護摩受付所  
電話〇四二(六六一)一一一五



高さ13.5センチ 横幅9センチ

### 神徳報謝百味飲食供 御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物(百味)を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。尚、法要終了後に大本堂にて百味供養の御札を授与致します。また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)  
御志納金 一口 三千元以上



大般若経を守護する十六善神の図

### いろは天狗の落し文 36

甘い考え

心のゆるみ

自分に向ける

厳しき目

「脚下照顧」という言葉の意味の一つは、他人に向かつて理屈を言う前に、まず自分の足元を見て自分のことを見つめ直すべきということがあります。急ぎすぎず丁寧に生きることを心掛けてみましょう。

### 高尾山報助成金 御志納のお願い

当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送っております。引き続きご愛読されますよう、皆様方の助成金御志納をお願い申し上げます。

高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	高尾山報助成金
小平市 関 道雄	仙台市 本郷 則子
富里市 森 照森	中野区 (街)コヤノ建設 六雄
八王子市 岩澤 君江	熊谷市 吉野 富士子
八王子市 中澤 きよ子	熊谷市 熊谷 宗有
板橋区 上野 モト子	熊谷市 妻沼飯縄講 淳
東村山市 安藤 和子	八王子市 石井 敏
八王子市 峯尾 和郎	あきる野市 石堂 清雅
相模原市 町田 良樹	葛飾区 高橋 キミ子
越谷市 佐久間 好幸	八王子市 水越 初夫
比企郡 豊嶋 郁洋子	加須市 稲見 ツヤ子
所沢市 水村 裕介	北本市 清水 武
秩父郡 神林 一夫	高崎市 落田 次雄
前橋市 佐藤 修	飯能市 安藤 礼子
北区 黒田 静雄	八王子市 関下 正幸
大田区 遠藤 岳博	宇都宮市 高嶋 雅子
板橋区 尾崎 ふみ江	八王子市 佐戸 喜和
八王子市 高木 孝子	三鷹市 岡野 大治
深谷市 加藤 隆	台東区 鈴木 加代
八王子市 瀬沼 秀雄	墨田区 鈴木 美代
千代田区 工藤 好子	板橋区 根岸 欣司
板橋区 泉田 和則	練馬区 河西 和子
武蔵野市 後藤 明夫	西東京市 宮野入しづ子
八王子市 田中 邦宏	東村山市 池ヶ谷 益生
久慈郡 早乙女 和江	日野市 (株)ナカダイ 誠
栃木市 (株)旭 栄	八王子市 秋山 松代
草加市 望月 恵美子	足利市 清水 康正
新座市 柿沼 孝行	狭山市 大森 ひとみ
本庄市 山田 栄夫	前橋市 角田 修一



### 人車一体交通安全祈禱 高尾山麓 自動車祈禱殿

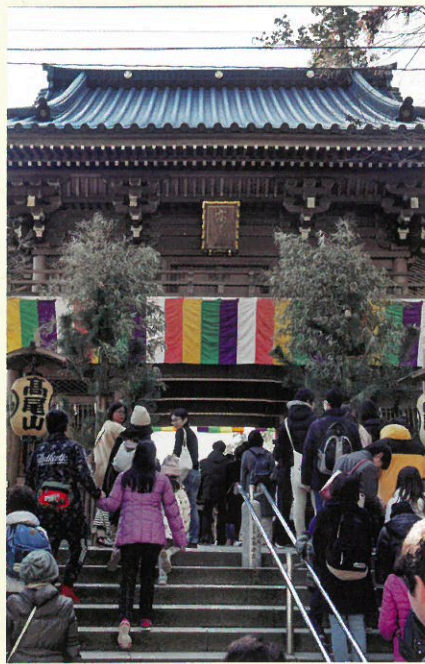
#### 正月御祈禱時間

元日 午前0時より午後四時まで  
二日・三日 午前八時より午後四時まで  
四日・七日 午前八時半より午後四時まで

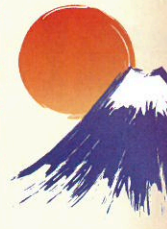
交通事故は偶然生ずるものでなく、多くの場合には、運転者並びに歩行者の心構え一つで防止できるものです。心に安らぎを得て、安定した気持ちで運転して頂く事が大事と考えております。

年に一度は、高尾山の山伏による人車一体の「おはらい」を受けることをおすすめいたします。複数台をお申し込みの場合には、事前にFAXにて受け付けております。

電話：〇四二(六六一)一一一八  
FAX：〇四二(六六一)二二二三



# 謹賀新年



令和六年  
甲辰(きのえたつ)  
大本山高尾山

## 春の行事

初詣 迎光祭  
新年特別開帳

大護摩供奉修

初甲子(福德大黒天祭)

一月二日(月)

節分会(厄除開運の豆まき)

二月三日(土)

初午(福德稻荷祭)

二月十二日(月)

秋尊涅槃会

二月十五日(木)

火渡り祭

三月十日(日)

滝開き

四月一日(月)

花まつり(仏舍利塔)

四月八日(月)

春季大祭(稚児練行)

四月二十二日(日)

## 一新春大護摩奉修特別時間一

	元日 (月)	2・3日 (火)・(水)	4・5・21日 (木)・(金)・(日)	6~8・13・14日 (土)~(月)・(土)・(日)	28日 (日)	9日以降平日 20日・27日土曜
午	0:00					
	1:30					
	3:00					
前	4:30					
	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
	7:30	7:00				
	9:00	8:00		8:00		
	10:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:30
午後	11:00	10:00	10:00	10:00	10:00	
	0:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	1:00	0:00	0:00	0:00	0:30	0:30
	2:00	1:00	1:00	1:00		
	3:00	2:00	2:00	2:00	2:00	2:00
	4:30	3:00	3:30	3:30	3:30	3:30
		4:00				

★正月期間中は御護摩受付所や大本堂周辺は、大変混雑致します。  
お昼前後の御護摩修行には大勢の御信徒様が集中することが予想されますので、混雑回避のために、時間を調整しての御来山をお勧めいたします。

### 二月行事日程

二月七日  
聖天秘供(聖天堂)

二月十三日、十九日  
弁天秘供

二月八日  
御詠歌勉強会(十時不動院)

二月二十一日  
仏舍利詣り(仏舍利塔)

二月二十四日  
飯縄様御縁日  
神徳報謝百味飲食供

二月二十五日  
月例写経会  
(十三時山麓不動院)

二月二十八日  
高尾山とんとんむかし  
「語り部の会」  
(十二時半山麓不動院)

奥の院開扉供養(十時奥之院)

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115(代)  
FAX(042)-664-1199  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラツカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円

高尾山薬王院  
ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>  
下記QRコード  
からもアクセス  
できます